

私立大学研究ブランディング事業

平成29年度の進捗状況

学校法人番号	171002	学校法人名	金沢工業大学		
大学名	金沢工業大学				
事業名	ICT・IoT・AIの先端技術を活用した地方創生				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	5920人
参画組織	工学部、情報フロンティア学部、環境・建築学部、バイオ・化学部、地域防災環境科学研究所、情報技術研究所、ものづくり研究所、先端材料創製技術研究所、FMT研究所、地域共創イノベーション研究所、生活環境研究所、感動デザイン工学研究所、電気・光・エネルギー応用研究センター、地方創生研究所				
事業概要	「ICT・IoT・AIの先端技術を活用して新たな里山都市を創生する大学」というブランド確立を目指し、我が国の重要課題である過疎地を研究フィールドとした「里山都市」において、産業界・自治体とともに本学研究所群が持つ多様な要素技術を集結した産学連携型研究を進める事で、里山都市の新たな機能(ライフスタイル)創生を行い、地域に貢献する理工系総合大学として、地方創生イノベーションの実現と社会への価値発信を行う。				
①事業目的	<p>本学は、イノベーション創出を支援すべく、平成29年に過疎地域と呼ばれる白山市中山間部に新たに建設する金沢工大白山キャンパスに研究機能の一部移転を計画している。</p> <p>過疎地域への研究機能の進出を決定した最大の理由は、既存の経済圏に捉われず、大都市から一線を画した場所で、未来志向に基づいた新たな都市を創造できる環境こそがイノベーションを創出するために最も効果的であると捉えたからである。また、都市消滅という危機的な状況を打開するためには、既存の人々の豊かな生活を支える自然や街・コミュニティといった重要な里山の機能を保ちつつ、安心・安全の暮らしを実現するために地域防災・エネルギー・教育・福祉・医療・産業振興といった分野のライフスタイルの変革が過疎地域に必要である。これらを踏まえ、地方都市におけるイノベーション創出及びライフスタイル変革のフィールドとなる新たな街を「里山都市」として位置づけ、その必要性を地元産業界・地域社会・自治体の方々と共有し、都市そのものを研究対象とすることで、地元産業界の新たなイノベーションに向けたチャレンジを喚起する実践的な産学連携研究を推進していく。</p>				
②平成29年度の実施目標及び実施計画	<p>(実施目標)</p> <p>前年度創出された①インフラデータ層プロジェクトを加速すると共に、②プラットフォーム層及び③アプリケーション層のプロジェクト創出を推進する。</p> <p>研究プロジェクト数 4(参加企業数 10社)、パートナー企業数 100社 交流者数 300人</p> <p>(実施計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○里山都市イノベーションプロジェクト創出セッション開催(5月) ○ブランディング広報発信のコンテンツ制作(5月～3月) ○里山都市イノベーションプロジェクト創出(6月～3月) ○イノベーション里山都市フォーラム開催(2月) ○評価委員会開催(2月) 				
③平成29年度の事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ①里山都市イノベーションプロジェクト創出セッションとして、東京・京都で告知イベント(参加者:110名)白山市・野々市市にてハッカソン、アイデアソン(参加者:52名)を開催した。 ②情報発信の方策検討を行い、昨年度開設した研究ブランディング事業HPの拡張として平成29年11月に地方創生研究所HPを開設した。 ③里山都市イノベーションプロジェクトとして、新たにドローンPRJ・獣害PRJ・農業ICTPRJの3プロジェクトを創出した。 ④里山都市フォーラムを平成30年3月に本学にて開催した。本事業の進捗状況や各プロジェクト概要について、企業(参加企業数:53社)に対して情報発信を行った。 ⑤平成29年度事業成果に関し、平成30年3月に白山市及び北陸産業活性化センターにて外部評価を受け、その結果を踏まえて平成30年5月に学内での内部評価を行った。 				

<p>④平成29年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) 5つの指標を元に評価を行った。(達成度) ①研究プロジェクト創出数(目標4プロジェクト):8プロジェクト(200%) H28年度5PRJに加え、イノベーションプロジェクト創出セッション等を通じて今年度新たに、3つのプロジェクトを創出することができた。 ②プロジェクト参加企業数(目標10社):19社(190%) 創出プロジェクト数が当初目標を大きく上回ったため、参加企業数も増加した。 ③参加企業満足度:90%(47/52) 里山都市フォーラムアンケート結果より算出した。 ④パートナー企業数(目標100社):104社(104%) 本学が事務局を務める白山市IoT推進ラボコンソーシアム会員企業数より算出した。 ⑤交流者数(目標300人):578名(192%) 今年度開催した各種イベント(里山都市フォーラム、プロジェクト創出セッション等)の参加・交流人数より算出した。</p> <p>今年度の成果としては、概ね目標値を達成できたが、満足度測定のアンケートを1回しかできなかった。精度を上げていくためにもH30年度はイベント時に積極的にアンケートを取り精度向上に努めて事業推進していく。</p> <p>(外部評価) 今年度の事業成果及び来年度以降の実施計画を白山市及び北陸産業活性化センターに説明し、以下の意見を頂いた。 産業界からの視点としては実証実験を行いたいと考えている企業ニーズはあるが、地域に入っていくには関係構築が大きなハードルになり断念するケースが多いので、大学が間に入って共に社会実装を進めていく本事業に大きな期待をしている。来年度以降より多くの多岐に渡るプロジェクト創出を進めて、北陸の産業界を盛り上げるような事業推進をしていってほしい。 自治体視点として白山麓地域は過疎化が激しく交通、獣害、買い物、医療といった様々な地域課題を抱えており、本事業のICT・IoT・AIの先端技術を基盤とした課題解決に地域住民も大きな期待をしている。 平成30年度から白山麓キャンパスが開設され研究拠点が整備されるとのことで、さらなる事業推進が加速することに期待していると同時に自治体としても全国発信していきたいと考えている。</p>
<p>⑤平成29年度の補助金の使用状況</p>	<p>研究費:ベントラボ、レーザーカッター、3次元データ作成、ディスプレイ、PC 広報・普及費:広報用パネル作成、リーフレット作成、ホームページ作成 その他:フォーラム講師謝金、情報発信・収集調査旅費</p>